麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属　獣医保健看護学科　　職階　講師

氏名　一戸　登夢

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

１．教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年
２．教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年
３．教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年
４．教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・・・・・毎年
５．学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
６．学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・・・・・・毎年
７．指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年
８．今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年

１．教育の責任　　対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2025年2月

私の教育の責任範囲は、愛玩動物の整形外科を専門とする獣医師の観点から、獣医臨床看護学、特に動物外科看護学の教育を行うことである。獣医保健看護学科の学生に対して、「動物看護学概論」では、これまで培った小動物臨床獣医師としての経験や、現在行っている附属動物病院での診療活動を基に、実際的な獣医臨床看護学の教育を行っている。また、附属動物病院では、担当している整形外科の診療を通じて、現在は獣医学科の学生や研修獣医師に対して実践的な獣医外科学の教育を行っている。将来的には、獣医保健看護学科の学生に対しても、動物外科看護学の教育を実践的な側面から行う予定である。さらに、整形外科領域におけるリハビリテーションや新しい治療法、整形外科疾患の病態の研究を進め、その成果を教育に反映させている。加えて、附属動物病院に所属する愛玩動物看護師の業務管理や育成にも力を入れており、学生の実習環境を整備することも私の教育の責任範囲であると考えている。これらの活動を通じて、学生が高度な知識と技術を持つ愛玩動物看護師として成長できるよう努めている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
小動物臨床実習	獣医学科	必修	5	153
動物看護学概論	獣医保健看護学科	必修	1	78
ジェネラリスト育成プログラム	獣医学科	自由	2	2
キャリアデザイン基礎	獣医保健看護学科	必修	1	78

２．教育の理念　対象期間：2024年4月～2027年3月　更新年月：2024年2月

専門分野の獣医臨床看護学は、疾患に罹患した動物の看護や、獣医師の指導の下での愛玩動物看護師による適切な処置、動物の健康な生活のための、実学的な学問領域である。現場での動物や飼い主への対応には、正解は一つではなく、個々のケースに合わせて幾つもの正解がある。そのため、基本的な知識を習得すると同時に、状況に合わせ「自ら考え、正解に辿り着く能力」が必要となる。知識を基にして、自ら考えて正解に辿り着けるような学生を育てたいと考えている。

臨床現場で遭遇する様々な事象について自ら考えるためには、その考えを言語化する能力が必要となる。獣医師・愛玩動物看護師が個別に活動すれば良いわけではなく、協力の上で成立する「チーム獣医療」が近年、求められている。「チーム獣医療」を達成するためには、スタッフ間での「コミュニケーション能力」が求められるため、考えを自らの言葉として記述できる能力を身につけた学生を育てたいと考えている。

今現在、小動物獣医療に従事している獣医師でもある私は、「実務家教員」であることが存在意義であると考えている。獣医臨床看護学が対象とする獣医療の現場では知識も重要であるが、それ以上に「経験」がものを言うことが多い。知識を知っているだけでは実践に結びつかないことも多々あるため、それを補うのが経験である。現場で経験を伝えることにより、獣医療の現場で活躍できる人材を育成したいと考えている。

３．教育の方法　対象期間：2024年4月～2027年3月　更新年月：2024年2月

小動物獣医療の現場で必要な自ら考え、個々のケースに合わせた正解に辿り着く能力を養成するためには、すぐに手に入る答えを求めるのではなく、自ら考えて答えに辿り着く訓練を繰り返し行うことが必要となる。そのため、本学動物医療センターでの診療を通して、学生や研修獣医師、愛玩動物看護師から疑問点を問われた際には初めから正解を教えるのではなく、可能な限りヒントとなるような考え方を提示して、自ら正解を導けるように誘導するようなやりとりを心がけるようにしている。

自ら正解を導く訓練を行うためには、質問や意見を発言しやすい環境づくりが重要であると考えている。そのために、学生・研修獣医師、愛玩動物看護師を一人の人間として尊重し、丁寧なやりとりを心がけるようにしている。また彼らの発言に対しては、否定から入るのではなく、必ず肯定的なコメントを述べるようにしている。さらに自らの意見や考えが、実際の診療につながるという実感を得ることも重要であると考えている。そのために、学生や研修獣医師、愛玩動物看護師の考えや意見を自らの言葉で説明してもらい、良いと思ったものは、自らの日々の診療に積極的に取り入れるようにして、実践的な教育を実現している。

日々の診療活動を通じて、知識を伝える際にも、自らの臨床経験に基づいた話をするように心がけており、様々な考えや事例を取り入れてもらえるような工夫をしている。

（1）アクティブ・ラーニングについての取組

有

日常の診療活動の最中・終盤にその日対応した症例についてのディスカッションの時間を設け、考えや疑問点などを学生や研修獣医師に発言してもらう機会を設けている。講義形式のように学科全体で、考える能力を身につける工夫としてはテーマを与え、それに対するレポート課題や、発表会などが考えられ、これらを今後は実施したいと考えている。

（2）ICTの教育活用

有

ICT機器としての3Dプリンターにより作成された、個々の症例の骨形態が表現されたモデルを活用して、状況を理解しやすいように説明している。
また学生の症例発表に際しては、画像や動画を提供し、発表しやすい環境づくりに取り組むようにしている。
さらに学科全体などの大人数への講義は一方的な知識の伝達になりがちであり、また質問で発言を促しても、積極的な発言を避ける学生は一定数出てしまう。これに対処する目的で、プレゼンテーション中にアンケートを行えるシステムを導入しており、これにより双方向でやり取りしやすい環境づくりに努めている。

4．教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2025年2月

（1）教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

講義・実習については理解を促す目的で、画像や先に提示した3Dプリントモデルを活用して、直感的に理解出来るように努めており、また大人数の前で発言を避ける傾向にある学生のために、リアルタイムでアンケートを実施できるシステムをプレゼンテーションに採用している。

（2）学生の理解度の把握

A

日々の診療の中でポイントと思われる点について、学生に質問するようにしている。

（3）学生の自学自習を促す工夫

A

診療技術の向上を図るための、参考図書の提示を行っている。また疑問点がないか積極的に聞くようにしている。

（4）学生とのコミュニケーション

A

学生・研修獣医師からの質問に対しては、メールや対面でなるべく即時に対応するようにしている。

（5）双方向授業への工夫

A

日々の診療活動の最中・終盤にその日対応した症例についてのディスカッションの時間を設け、考えや疑問点などを学生や研修獣医師に発言してもらう機会を設けている。

（6）国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

日々の診療の中で過去に国家試験で問われたことがある部分について、学生に質問するようにしている。

5．学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2025年2月

（1）授業評価アンケート結果の授業への反映

2024年度新設の学科であり、2023年度は授業がなかったので、割愛する。

（2）（1）の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

2024年度新設の学科であり、2023年度は授業がなかったので、割愛する。

（3）（2）を踏まえた次年度の取組

2024年度新設の学科であり、2023年度は授業がなかったので、割愛する。

6．学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2025年2月

（1）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

なるべく直感的に理解出来るように、実際の症例の画像や動画、先に記述した3Dプリントモデルを活用して、説明するようにしている。また知識に偏重することなく、臨床現場で即戦力になるような人材を育成すべく、自ら考えさせるような質問をするようにしている。さらに獣医学や動物看護学は基礎から臨床科目までが有機的につながっているため、解剖学や生理学などで履修する内容を踏まえた臨床教育を行うよう努めている。

（2）（1）の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

学生からは直接、理解しやすいとの講評を得ている。

7．指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2025年2月

可能な限り、リアルタイムに参加している。参加出来なかった場合には、必ず録画を視聴している。

8．今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2024年2月

　獣医保健看護学科の教員として、本学卒業生の愛玩動物看護師国家試験の合格率を、同様に獣医学科が併設される大学よりも高いものにしたいと考えている。また本学を卒業する愛玩動物看護師にとって、本学動物医療センターが就職を希望するような魅力的な職場となるように、環境を整備したい。

9．ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2025年2月

シラバス